

1. 研究課題名：

捕獲鳥獣の適正かつ効率的な処理システムの構築に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

山田正人

国立研究開発法人国立環境研究所

3. 研究実施期間：平成 28～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

近年、有害鳥獣の捕獲圧が低下し、ニホンジカ等大型鳥獣により農林業・生活環境・生態系に深刻な被害をもたらしている。大型鳥獣の生息数変化は生態系や農業への影響が懸念される反面、駆除した個体の処理方針が定まっていないために駆除計画の策定・推進に慎重な自治体が多いのが現状である。福島県では原子力発電所の事故に伴い、放射性物質への曝露が懸念されるイノシシ等の対応に迫られている。家畜感染症に罹患した個体と同様、汚染の拡散・二次的な健康被害を防ぎ、速やかに生活・自然環境への影響を削減するためには、駆除から処理までの一体的な鳥獣類管理体制の構築が喫緊の課題となっている。一方で、自治体における捕獲鳥獣の処理では、未だ廃棄物処理システムとの接続が不十分であり、焼却施設への受入れにあたっての施設への収集輸送、住民の理解、炉投入時のサイズ超過、埋設処分の際の環境安全性に対する懸念等が課題である。こうした懸念を払拭し捕獲鳥獣等を安定して処理するためには、自治体の部局横断的な連携により、一般廃棄物処理システムを活用した体制整備が求められる。以上のことから本研究では、大型鳥獣を一般廃棄物処理施設で受入れるための技術上の課題を明らかにし、既存の廃棄物処理システムへの円滑な接続のための検討を行う。

5. 研究項目及び実施体制

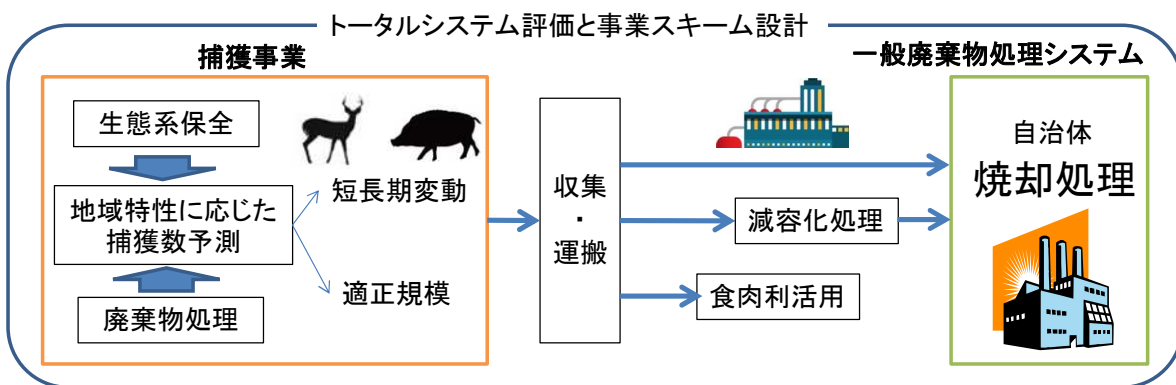
- (1) 捕獲鳥獣の発生分布と収集運搬ロジスティックスに関する研究（国立環境研究所）
- (2) 捕獲鳥獣の高温生物処理に関する検討（国立環境研究所、北海道大学）
- (3) 放射性物質に汚染されたイノシシの高温生物処理に関する検討（国立環境研究所、福島県環境創造センター）
- (4) 自治体等による総合的な適正処理システムの構築（国立環境研究所）

6. 研究のイメージ

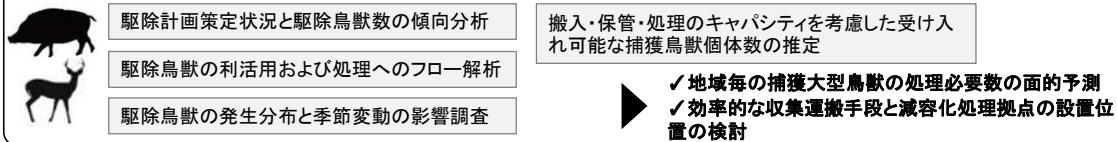
【背景】鳥獣による生態系・農林水産業・生活環境への被害が深刻化
 ⇒ ボトルネックになっている適正かつ効率的な処理の推進が課題
 福島県等においては、放射能汚染の影響で問題が複雑化
 ⇒ 放射性物質に汚染された鳥獣の処理技術の確立も課題

【検討項目】

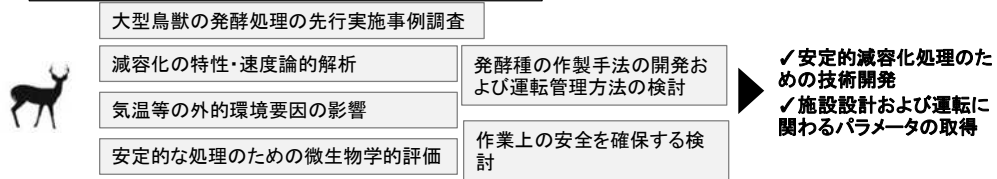
- 捕獲鳥獣の発生分布と収集運搬ロジスティクスに関する研究
- 捕獲イノシシ・ニホンシカの高温好気性生物処理(発酵)技術の開発
 - ・ 焼却処理の前処理としての減容化処理として高温発酵処理技術の確立
 - ・ 処理プロセスにおける放射性セシウムの挙動解明と制御方策の検討
- 自治体等による総合的な適正処理システムの構築
 - ・ 一般廃棄物焼却施設との連携を意識した、駆除から処理までの一体的な処理システムの提案
 - ・ コスト評価、資金調達を含む事業スキームの提案



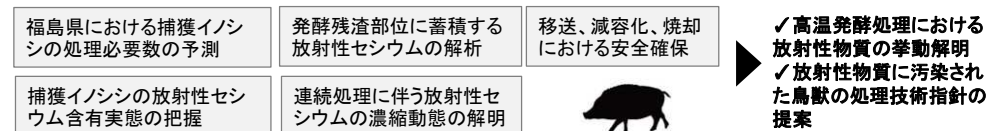
(1) 捕獲鳥獣の発生分布と収集運搬ロジスティクスに関する研究



(2) 捕獲鳥獣の高温発酵処理技術に関する検討



(3) 放射性物質に汚染されたイノシシの高温発酵処理技術に関する検討



(4) 自治体等による総合的な適正処理システムの構築

